

# THE FAME; NEGATIVE and POSITIVE

好評のシリーズである「ゆうめいむめい」コーナー。  
といってもゆうめい＝有名、むめい＝無名というわけではない。  
とにかく、この京都に関わりを持つハイパワーな人を  
ポジティブにそしてネガティブにスポットをあてていくコーナーである。



菊地武夫は神様です。



J O : i n クアトロにショップ誕生。

B O D Y  
&  
S O U L

## 自分でデザインした Tシャツは10年後、 着るのがおしくなる。

おすすめいただいても、  
おこなえてくるオリジナルプリント屋

オリジナルプリント&プリントデザイン

# スタ・ジー・オ グ・ロー・ブ

〒605 京都市東山区泉涌寺東林町41-6 PHONE(075)561-4390

今やDCブランドの波は極めてすごい。アパレルだけというのは遠い昔の話である。ノートからTプルウェア、パーソンのバイクにミスタージュンコのペーパーウェイト。日常生活用品はほとんどDCブランドでまかなえる有様。DCブランドという呼称は最近よく使われだした言葉であるが一体なんなのか。VAN、JUN、ACE、KENT。マンシング、クロコダイル、ラコステ。グッチ、セリヌ、ロベルタ。などのグループはこのDCブランドとは呼ばない。やはりビギ、ニコル、ギャルソン、ワイズのあたりからDC

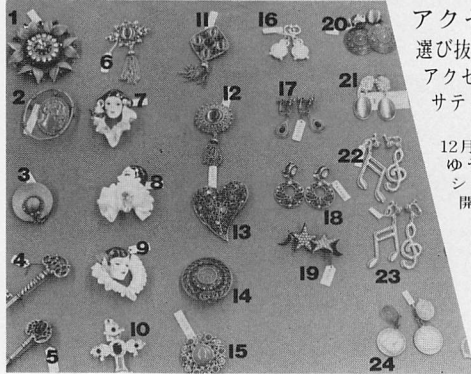
ブランドと呼ぶのだろう。それではまずまずDCブランドが何なのだろう。筆者の場合はその時代時代にこれを着てれば女の子に恥をかかないだろう、イモとは呼ばれないだろうなんて、最もミスターに、何でこんなに高いんだろうと思いつつ買ったものである。しかし、こうブランド名というキャラクター名が多くその名の露出度も高くなつてくると予備校でもないかぎりどのブランドがどうなのか知るよしもない。そんな現代のDCブランドシンδροームに導いたというかハシリといふべき人物がご存知、菊地武夫氏で

はないだろうか。デザイナーズブランドという呼び方がされだしたのは6、7年前に流行通信という雑誌がポピュラーになつてきた頃。コム・ディギヤルソン、ワイズ、ニコルなどが台頭し、ヤマモトヨージ、カワクボレイ、キクチタケオ、イナバヨシエなどの知らなくてよかつた名前がよく聞こえてきたのである。そしてそのデザイナーズブランドをここまで神話化させたのは当時、頻繁に雑誌などに露出してきた菊地武夫氏の顔のビジュアルだったのではないだろうか。

この写真は四条河原町に11月に

## あなたに選ばれたアクセサリを あなたにプレゼントいたします。

さあ、12月です。パーティーシーズンの到来です。きらめくパーティーの花は何といつても思い思いの演出と華やかなルックス。しかも今年のトレンドがアクセサリとくれば小粋なアクセサリは星の数ほどほしいね。そんなお洒落なあなたに耳よりなお知らせ。この写真の中からあなたが一番欲しいと思うものを郵便はがきでご投票下さい。人気ナンバー1にご投票いただいた方の中から抽選で30名様にそのアクセサリをプレゼントいたします。



アクセサリ祭を開催。  
選ばれたインポート  
アクセサリ、あなたは必ず  
サティスファクション!!

12月25日まで、  
ゆうめいむめい倶楽部  
ショースペースに於いて  
開催中です。

PRESENTED  
by よんもくや

応募方法  
郵便はがきにアクセサリ番号と住所、氏名、  
年齢、電話番号、職業をご記入の上、お送り  
ください。12月25日消印まで有効です。ゆう  
めいむめい倶楽部からのささやかなクリスマス  
プレゼントです。  
お送り先  
〒600 京都市下京区室町通四条下ルあしはら共栄ビル5F  
ゆうめいむめい倶楽部「アクセサリ人気投票」係 迄

オーブントしたJO・INクアトロのオーブニングレセプションでのものである。京都初のTAKEO・KIKUCHIのショップがこのクアトロに登場ということでのあれらしいがさすがにこの人の周辺に漂う空気はいい感じであった。動かず静かなトーンで答えるだけのような会話、お洒落な顔。服が売れるのもわかるような気がした。そして、星の数ほどあるDCブランドの中を泳ぐ我々がたどり着く港がコンサバティブなスペースなら、悲しい限りである。



# THE FAME: NEGATIVE and POSITIVE

好評のシリーズである「ゆうめいむめい」コーナー。  
 といってもゆうめい＝有名、むめい＝無名というわけではない。  
 とにかく、この京都に関わりを持つハイパワーな人を  
 ポジティブにそしてネガティブにスポットをあてていくコーナーである。

あなたの“満足”売ります。



山本 篤氏



この世の女性の憧れを、思いのままにする男がいる。この世の最高の宝石を、思いのままにする男がいる。こんなうまいヤツがいるとは、世の中、虫がよすぎるが、彼は、ここ京都で、ジュエリデザイナーとして、女性の憧れを売っている。

● 宝石というのは、他の物と違って、必需性というものは、全くないからこそ、やはり最高の贅沢なんだろうね。  
 ● そうですね。私はお客様のそういった贅沢な我がままを満たすぞうだ。

デザイナーだと思えますよ。でも、この業界じたいが、他のアパレルと比べて10年遅れてますね。

成る程、そうかもしれない。ジーンズは、ジーンズSHOPへという細分化したニーズの世界の中で、まだまだ他のアパレルの域には、この業界は達していないよ。うだ。

● ここで、一つ伺いたいのは、山本さん自身、ジュエリーをデザインする上で、TPOだとか、デザインのファッション性、美しさ、etc、どの概念からイメージを作りますか。

● やっぱり、TPOですね。と言うか、お客様のニーズに合わせるのが、大前提ですし、自分のイメージとおお客様の志向は必ずしも合いませんが、やっぱりそこらへんは商売ですよ。(笑)

● 山本さんから見た、来年のトレンドはどうですか。  
 ● ウーン、難しいですね。とりあえず、ダイヤの製品かな。アパレルと違って多様化してますから何が流行るといえるのは、一概には言えませんね。

ジュエリーオーダーデザイナーの山本篤氏、27歳。女性の最大の憧れを、最高の宝石で、思いのままにする。そしてそれは、一人一人の客の個性を生かし、自分の存在を主張する女性の虚栄を充分、満たしてくれる。そう、女性のこの上ない虚栄心と、物質的な満足は何カラットかのダイヤの上でミックスさせる——それが、デザイナーの技術なのかもしれない。そんな最高の贅沢を操る男は、日本にはまだ、三人しかいないぞうだ。